

# 皮膚科と歯科の連携 歯科金属だけでなく 歯性の病巣も大切



藤田保健衛生大学  
皮膚科学講座客員講師・おしむら歯科院長  
押村 進(おしむら すずむ)

1979年愛知学院大学歯学部卒業 同大学第一口腔外科教室入局  
1981年おしむら歯科開業  
歯学博士(口腔外科学)・東海オステオインテグレーションソサイティ会長・日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本口腔インプラント学会・中部形成外科学会 会員・日本アンチエイジング歯科学会・国際レーザー歯科学会 認定医  
<http://www.oshimura-dc.com>

掌蹠膿疱症の原因は歯科的な金属か、  
病巣感染かの見極め

皮膚疾患が出て患者さんが歯科の金属アレルギーを疑って歯科医院にいられた時に我々歯科医師はすぐに金属アレルギーを考えますが、そうではない場合も多いという話です。

当院にも金属アレルギーで来院する患者さんのなかでも掌蹠膿疱症(PPP)の患者さんが多くいます。そうした掌蹠膿疱症などの患者さんに対しては金属アレルギーだけではなく歯性病巣感染を疑ってみる認識が必要で、最近、歯性病巣は、歯周病や心内膜炎、早産、低体重児の出産の原因になると言われ、同じように皮膚疾患もそこに加えられると思います。

歯科医師向けに書かれている歯科金属アレルギーの本にもよく読むと、掌蹠膿疱症

の起因の第一は、口蓋扁桃の慢性病巣と書いてあります。その他、歯根、副鼻腔、中耳、リンパ節、虫垂、胆のう、骨髄、卵管、前立腺などの病巣、また扁桃、歯周炎、などの頭頸部の疾患が80〜90パーセントを占め、扁桃摘出や抜歯などの処置により軽快することが多いとあります。でも一般の歯科医師は掌蹠膿疱症やアトピーは金属アレルギーが原因だと思っっている方もまだまだ多いです。こういった掌蹠膿疱症の患者さんに検査とか皮膚科での対診もしないで、金属アレルギーと決めつけて高い費用でジルコニアやセラミックにしても治らなかったら患者さんは困ってしまいます。また扁桃摘出や抜歯をすると、一時的に症状が悪化することがありますが、逆にその後「予後」が良いとされています。

因かと考えられる接触皮膚炎、扁平苔癬、貨幣状湿疹などの診断がつけば、金属アレルギーと考えるいいかもしれません。それは必ず金属置換で治るわけではありませんが、関連は深い疾患です。慢性じんましん、掌蹠膿疱症、異汗性湿疹などについては、病巣感染が関与していることが多い疾患なので、皮膚科の医師に聞いてから患者の疾患の歯科としての対応を見分ける必要があります。歯科的な金属か、病巣感染かという2方向の観点で患者を診断する必要があります。ということですね。

皮膚科の医師も、歯科や耳鼻科を頼りにしています。このような患者が歯科医に来たら、歯科医単独ではなく、皮膚科や内科の連携が大切です。(資料1・2)

扁桃病巣感染  
扁桃病巣感染は扁桃自体が悪さをします。扁桃が関わる病気は、急性腎症、18>腎